

開催日時：平成19年3月27日（火） 10：30～13：30

場 所：ドーンセンター 5階特別会議室

出席委員：池淵委員長、高橋委員、中川委員、久委員、弘本委員、堀野委員、増田委員、山下委員

1. 議 題

- (1) 二級河川大川水系河川整備基本方針について
- (2) 二級河川大川水系河川整備計画について
- (3) その他（策定済河川整備計画のフォローアップについて）

2. 概 要

- 二級河川大川水系河川整備基本方針について

（まとめ）

二級河川大川水系河川整備基本方針（原案）の説明を行い、以下の指摘事項を整理反映させることとし委員会です承された。今後は、同意申請にむけ、国土交通省及び関係機関との協議を進めていく。

（委 員）本文1頁、図1の大川水系流域図に下河原橋を記載すること。

（事務局）記載する。

（委 員）社会特性に関する人口等のデータは最新（平成17年度）のものを加えること。

（事務局）追加修正する。

（委 員）今回、基本高水流量と計画高水流量がどちらも190m³/sとなっている。逢帰ダムは府の農林所管であるが、洪水調節分（20m³/s）を加味して、基本高水流量は210m³/sとすることはできないか。

（委 員）本文13頁の※印の記述をダムの効果（20m³/s）が見えるように表現したほうが良いのかどうか、検討をお願いしたい。

（事務局）大阪府としては、逢帰ダムが法河川の外にあり府の農林施設でもあることから、その調節量をあらかじめ基本高水流量に加味しておくという考えで説明してきた。今後、国交省との協議をしていく段階で、国とも相談しながら表現方法について検討する。

（委 員）流下能力図の満流評価について、右岸・左岸の流下能力に違いがでるのはなぜ。

（事務局）右岸・左岸ごとに対岸も同じ高さの護岸があるものと仮定して、評価しているためであるが、策定済みの整備計画も踏まえ、今後の対応を検討する。

（委 員）流域の特性として、流域の90%が山林であることを踏まえ、本文10頁の流域の将来像に反映されているのはいいが、6頁の社会特性の分析では農業のみの記載にとどまっているので、農林業という形で山林や植林地の現状も記載しておくべき。

（事務局）追加修正する。

（委 員）基本方針として、逢帰ダムの治水効果を見込んだ上での治水計画、岬町の特性を踏まえた河川環境の整備や維持について、概ね同意できる内容であったので、以後、関係機関との協議を含め申請手続きを進めていただきたい。

○ 二級河川大川水系河川整備計画について

(まとめ)

二級河川大川水系河川整備計画(素案)について審議を行った結果、本日の各委員の指摘事項を踏まえ住民意見の聴取手続きを行い、整備計画(原案)を作成し、次回審議することとなった。

(委員) 今回の整備計画では、「緊急的な局所改良は行うけれども、50mm降雨による洪水対策が完成するものではない」ということを正直に伝えなければ、住民の方に誤解を招く恐れがある。

(委員) 「50mmの降雨による洪水を防御します」ではなく「50mmの降雨による洪水を防御することを目標とします」としてはどうか。

(事務局) 意見を踏まえ、今後、国との協議も並行して進め、表現を検討する。

(委員) 「ソフト対策に重点をおいた被害最小化方策の検討が重要」ということを言い切っても問題ないのか。

(委員) もし洪水が起こった場合、どこが浸水するのか等の情報を住民の方に提供していくことが重要。

(事務局) 記載内容について、表現を検討する。

(委員) 堰の改築によって流下能力の増加を見込めるのであれば、流下能力図にそのラインを記載すればいいのでは。もう少し検討を加えれば、目標流量の120m³/sまで流下能力を上げることが可能では。

(事務局) 再度、検討する。

(委員) 南海橋周辺の整備内容で「洪水に対して流下能力が不足している」と記述しているが、ここの洪水という定義は50mm対策ではないので、その辺りを明確にしておくべきでは。

(委員) 50mm対策の考え方について、この計画ではすべての地点で降雨強度を50mm/hrと設定しているが、上流と下流では洪水到達時間が違うため、本来は各地点の洪水到達時間を考慮した降雨強度を用いて、50mm対応の目標流量を算出すべきではないか。

(事務局) 再度、検討する。

(委員) 整備計画について、本日の各委員の指摘事項及び住民意見を踏まえ次回も審議したい。